

ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と株式会社三菱 UFJ 銀行は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の掲げる諸目標達成にむけ、ユネスコスクールが取り組む「持続可能な開発のための教育 (ESD)」の活動費用を助成する「ユネスコスクール SDGs アシストプロジェクト」を行っています。



持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) とは

「誰も置き去りにしない」「よりよい地球をつくるために」2030年までに国際社会が一丸となって取り組むべき国際目標です。貧困や飢餓、教育、ジェンダー、保健、環境、防災、エネルギー、経済格差や若者の失業、気候変動などの世界が掲げる課題に対して、先進国、途上国が共に協力しながら、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから成ります。それぞれの目標の達成には、各国の政府だけでなく、企業やNGOなどの民間組織や市民社会、そして世界中の人たちが一体となって取り組む必要があります。

ESD を通じて SDGs の達成

ESD は目標 4 の中のターゲット 4.7 に示されています。

「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」



さらに、「教育は全てのSDGsの基礎」であり、ESDは持続可能な社会の担い手づくりを通じて、17全ての目標の達成に貢献します。

出典：「ESD推進の手引」

(2018年日本ユネスコ国内委員会発行)

<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1405507.htm>

活動事例紹介

これまで「ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト」(第6期～第9期)として助成を受けた事例をもとに、それらがSDGsの掲げるどの目標達成を意識した取り組みであったかをご紹介します。

石川県金沢市立森山町小学校 (世界遺産・地域遺産教育)

「思いを込めた加賀友禅卒業証書台紙づくり」



【対象学年・人数】6年生 49人

地域遺産学習の一環として、伝統文化継承のために「加賀友禅」について調べ、後継者不足などの現状を学んだ。また、地域と協力して実際にその製作工程の一部を体験し、卒業証書の台紙を作成した。生徒は自分たちにできることは何かを探求し、作成した「加賀友禅卒業証書台紙」を市役所に展示して地域住民に伝統の素晴らしさを発信した。

【助成金の使途】

講師謝金、生地代、染料など材料費



宮城県仙台市立郡山中学校 (防災・減災教育)

「学校と地域が協働して推進する中学生主導の防災教育」



【対象学年・人数】全校生徒 597人

中学生が中心となって住民参加型防災訓練を実施した。近隣の小学校や大学と連携し、防災・減災のスキル習得や東日本大震災の教訓の継承を図ることと、“支えられる人”から“支える人、支え合う人”へと、心と姿勢の変容を目指した。学習成果については、ユネスコスクール東北大会で生徒会が発表するなど各種の発表会に参加し、外部に発信した。

【助成金の使途】

炊き出し調理用の鍋、鋳物ガスコンロ、LPガス用ゴムホースなど、防災訓練備品



東京都多摩市立東愛宕中学校 (環境教育)

「東愛宕中 HONEY プロジェクト」



【対象学年・人数】全学年 172人

全校でCOP21の取り組みを具体化するため、養蜂を通じて生物多様性や地球温暖化、食料の生産と消費について学んだ。専門機関(多摩養蜂園)や地域住民(多摩楽農倶楽部)の協力を得て、地域活性化や少子高齢化の進む多摩ニュータウンの再生を目指して活動した。

【助成金の使途】

養蜂指導者への謝金、防護服、巣箱購入代金



愛知県名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校（国際理解教育）

『教室での学び』を世界とつなぐ『グローバルクラス』の開設



【対象学年・人数】中学2・3年 53人 高校1・2年 26人
「総合的な学習の時間」で生徒が行っている調査研究活動（環境・平和・人権問題）に関して、モンゴルの中高生とTV会議を実施した。また、モンゴル語講座を開講したり、学校祭でゲルを組み立てたりすることでモンゴルの風土や文化への理解を深めた。「保護者ボランティア」として保護者のサポートを組織化し、名古屋大学の留学生を招聘するなど、地域と連携して活動を行った。

【助成金の使途】

モンゴル文化講座講師謝金、デジタルビデオカメラ、可動式掲示ボードなど



兵庫県神戸市立葺合高等学校（平和・人権教育）

「未来の共生社会に向けて～赤ちゃん和高校生の交流プロジェクト～」



【対象学年・人数】1年生 360人

総合的な学習の時間にNPOから派遣されたお母さんと赤ちゃんをクラスに迎え、出産や育児について話を聞くことで命を大切にする価値観を養うことを目的に実施した。自分の写真や名前の由来などを記した「ご機嫌カード」を一人一人作成し、クラスメイトの固有性や大切さを実感することで、共生の心を育てることができた。

【助成金の使途】

講師謝金、フェルト、生地など



北海道札幌平岸高等学校（国際理解教育）

「さっぽろ雪まつり・ユネスコ世界寺子屋運動プロジェクト」



【対象学年・人数】1・2学年

日本ユネスコ協会連盟の「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」に参加し、途上国の教育事情について学び、調べ学習を発展させ、書きそんじハガキ提供を呼びかけるリーフレットを作成している。さっぽろ雪まつりにおいて、「世界寺子屋運動」を市民に周知することを目的に、2017年冬季アジア札幌大会マスコットキャラクターの雪像を生徒たちが制作。雪まつりの会期中は、雪像前で「世界寺子屋運動」募金活動を行った。

【助成金の使途】

会場一学校間生徒交通費



参考資料

【日本ユネスコ国内委員会】 <http://www.mext.go.jp/unesco>

【国連広報センター】 <http://www.unic.or.jp/>

三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下略称、MUFG）では、「地球温暖化・気候変動」への対応を優先的に取り組むべき「環境・社会課題」の一つと捉え、環境負荷を低減して持続可能な環境・社会の実現に貢献する取り組みを進めています。



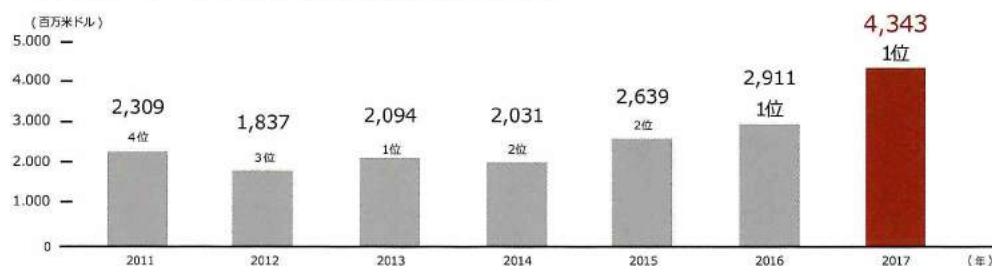
再生可能エネルギーの推進と普及

MUFGでは豊富な実績とノウハウ並びに国内外に広がる拠点網を活かし、太陽光・風力・地熱発電をはじめとするプロジェクトファイナンス等のアレンジや融資を通じて、世界の再生可能エネルギーの普及に貢献しています。2017年には再生可能エネルギー事業に関連したファイナンスのリードアレンジャー世界ランキングで2016年に続き第1位となりました。



宮崎県における太陽光発電事業
年間発電容量は96.2MWと一般家庭3万世帯分の年間電力消費量に相当

■再生可能エネルギー部門におけるファイナンスアレンジの実績推移



(出典: Bloomberg New Energy Finance ASSET FINANCE/Lead arrangers LEAGUE TABLE)



公益社団法人 **日本ユネスコ協会連盟**

日本ユネスコ協会連盟はSDGsの目標4を中心ゴールに据え、「教育を通じたSustainable Development Goalsの推進=平和な世界への貢献」を目指して活動しています。



日本ユネスコ協会連盟 <http://www.unesco.or.jp>

SDGs達成に向けた次世代育成 (協力: (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ、(株)三菱UFJ銀行)

- ・ユネスコスクールESD国際交流プログラム
- ・ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト (旧: ESDアシストプロジェクト)
- ・守ろう地球のたからもの ESD教材・絵本